

お問い合わせ

●文化財保護課
前橋市総社町三丁目11番地4
TEL.027-280-6511
FAX.027-251-1700

●臨江閣
前橋市大手町三丁目15番
TEL.027-231-5792

ご案内

- 見学時間 9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日 毎週月曜日 月曜日が祝日の場合は翌日）
年末年始
- 入館料 無料

交通案内

- 前橋駅から車で約10分
- 関越自動車道 前橋ICから車で約15分

RINKOKAKU Pavilion

Rinkokaku Pavilion is a wooden building built in modern Japanese style. It consists of 3 parts-Honkan(main building),Bekkan(detached building),and a teahouse.

The main building and the teahouse were designated as important cultural properties by Gunma Prefecture, and the detached building, by Maebashi City. The main building was built as a luxurious official guesthouse by Mr. Katori Motohiko, the first governor of Gunma. It was completed in September of 1884 with the cooperation and fund-raising of his fellow volunteers in Maebashi.

The detached building in Shoin style was added in 1910 to be used as a guesthouse for honorable people attending the Prefectural Meeting of Japan.

The teahouse was completed two months after the main building, in November of 1884 by Mr.Imai Genbei, a traditional carpenter of Kyoto.

ご案内図



撮影：穂坂 昭



臨江閣

R I N K O K A K U

臨江閣

迎賓館として誕生した

群馬県指定重要文化財（昭和61年3月7日指定）

工期 ■明治17年5月～同年9月
建築費 ■5千円
構造 ■木造二階建、入母屋造り
椽瓦葺き、数寄屋風建築



本館

当時の県令榎取素彦（かとりもとひこ）の提言により下村善太郎（初代前橋市長）を始めとする地元有志や銀行等の企業の寄付で建設された迎賓館です。

利根川の流れに面し、妙義、浅間の各山々を遠望する敷地のほぼ中央に建設されました。

明治26年の明治天皇の行幸の際に、行在所として使われたのを始め、明治35年と明治41年には大正天皇（当時は皇太子）が御滞在されるなど、多くの皇族方が御滞在されています。

昭和20年から同29年までは、市庁舎戦災により仮庁舎として使われ、その後は昭和56年まで市の公民館として、また結婚式などにも利用されました。その後平成19年まで公民館別館として利用されていました。

主屋部分は創建当時の面影をよく残しています。が、玄関脇の留守居棟や奥の便所納戸棟などの附属屋は、その後増築されています。また、外周のガウ入戸は後から取り付けられたもので、当時は雨戸であったと思われます。

わびに徹した

群馬県指定重要文化財（昭和61年3月7日指定）

工期 ■明治17年7月～同年11月
建築費 ■千円
構造 ■（茶席）木造平屋建、入母屋造り、椽瓦葺き
（座敷）木造平屋建、寄棟造り、椽瓦葺き



茶室

本館建設にあたり地元有志が惜しみない協力をしたことに対し、心を動かされた県令榎取素彦を始めとする県庁職員の募金により建設され、前橋市に寄付されたと言われています。この茶室の席名は創建当初はついていませんでしたが、平成20年全国都市緑化フェアに際して、県令榎取素彦の号である「耕堂」と命名されました。

建築は、京都の茶室大工、今井源兵衛の手によるものです。

茶席は、京間4畳半・本勝手・下座に床の間を持つ形式で、わびに徹して草庵茶室を守った金森宗和の系譜に属するものと思われます。

貴賓館として誕生した

前橋市指定重要文化財（昭和61年6月6日指定）

工期 ■明治42年9月～43年8月
建築費 ■2万8千2百5拾円
構造 ■木造二階建、入母屋造り
椽瓦葺き、書院風建築



別館

明治43年に前橋市で開催された、一府十四県連合共進会に先立ち、貴賓館として建設されました。

1階には、西洋室（板床大広間）1室のほか、日本間が7室あり、2階には、舞台を備えた150畳（舞台を含めると180畳）の大広間1室があります。

建築用材として、中山道安中宿の杉並木の巨木30本の払い下げを受けており、大広間周囲に柱目美しく並び、今も大屋根を支えています。

建築にあたっては、工期の短さから、経験豊かな請負人として、市内の小曾根甚八が選ばれました。共進会閉会後は、前橋市に引き渡され、近県にまれな大公会堂として利用されてきました。

